

新しきクリエーター

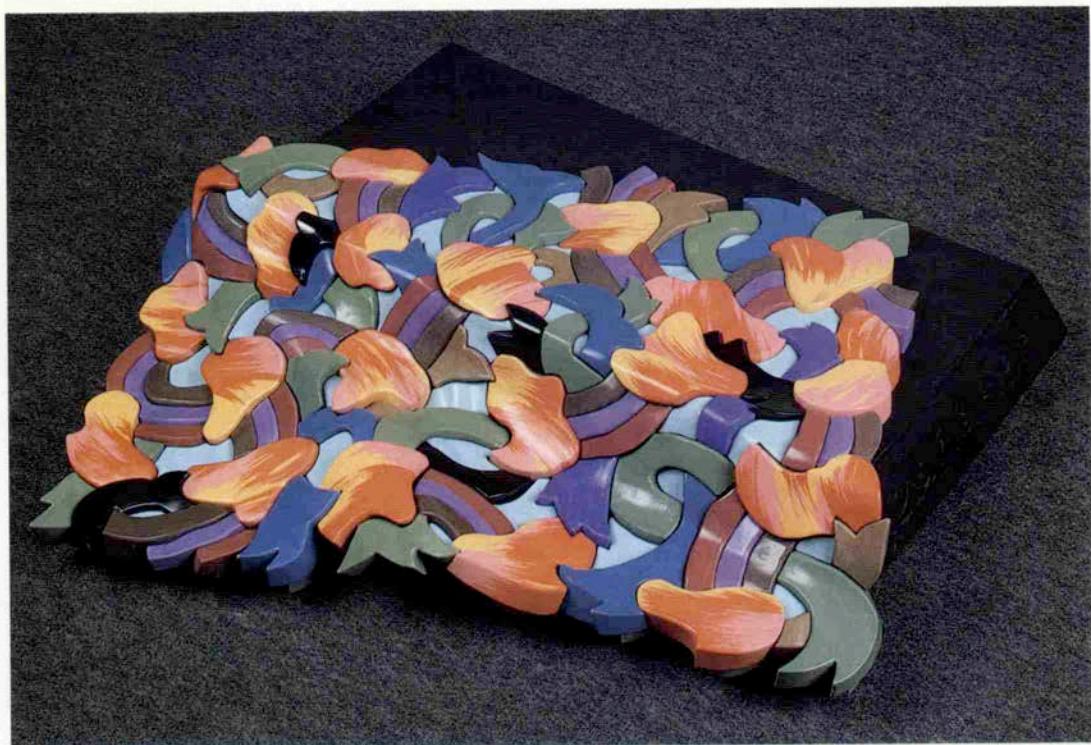
美の小箱 重松あゆみ

文・赤根和生

（美術評論家）

陶芸といえば、工芸の分野に入れられるのが常だが、陶彫なる領域もあるのだから、重松のように、おさまりかえった旧来の個体に抗し、立体的になることさえ、極力排して、平面に撤する作品は、さしづめ、陶画とでもいうべきか。それほど絵画性をうたいあげているからである。しかも、画（？）面は奔放な抽象で、緊密に結びついた、というよりは、色彩が同時にフォルムでもある明解な文節に区切られた個々のユニットとして、相乗的に全体へとリズミカルに高まる。それはさながら、ジグソーパズルのごとく、謎めいた絡みをみせながら有機的なダイナミズムもユニークだが、何よりもその色調のみごとさ！ 深く沈んだ温かさは、きらびやか、あるいは冷ややかな硬質の光沢の及ぶところではない。それもそのはず、釉薬はつかわず、素焼。陶片に色化粧（泥水に顔料をとかしたもの）を施し、緑はクロムを混ぜ、黒は本格的な黒陶を。という念の入りよう：それを低温で焼きあげた、いわば軟陶を丹念に磨くという技法によるしつとりとした効果なのである。

絵画性も含めて芸術である以上、空間表現でなければならないが、〈空間から環境へ〉の造形芸術の趨勢もさることながら、〈環境意識〉は今日の常識でさえある。また鑑賞が〈参加〉の語におき替えられてから久しいが、コミュニケーション時代もまたそうした現実のなかから生起した。環境性はかつてのモニユメントアーティストに対立する概念で、彫刻が、記念碑性のシンボルとしての台座を下りた時点で環境そのものとなつたように、絵画に付きものの額縁を追放した時点での踏み込んだ環境による。技術的には完璧なのだから、対面性だけにこだわらず参加者を包み込んで充足させる展示によつてこそ、その実が果されるべきだろう。



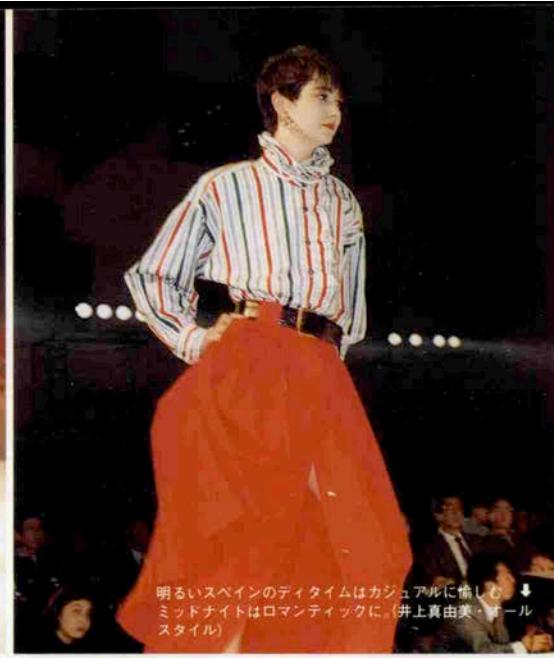
89-ORW-15

素材 彩色黒陶

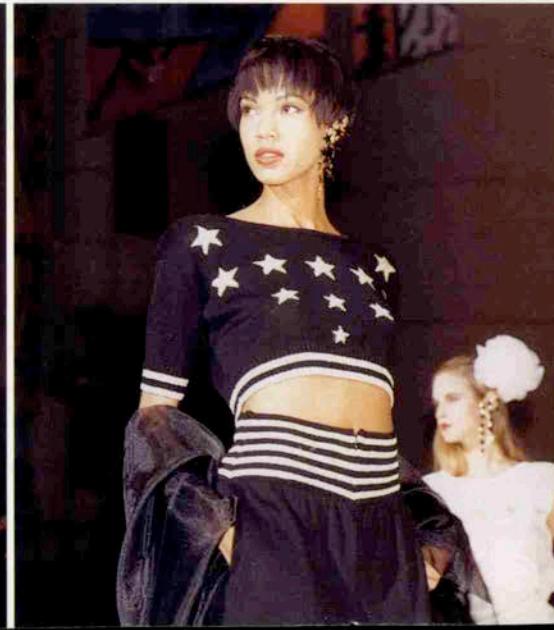
重松 あゆみ



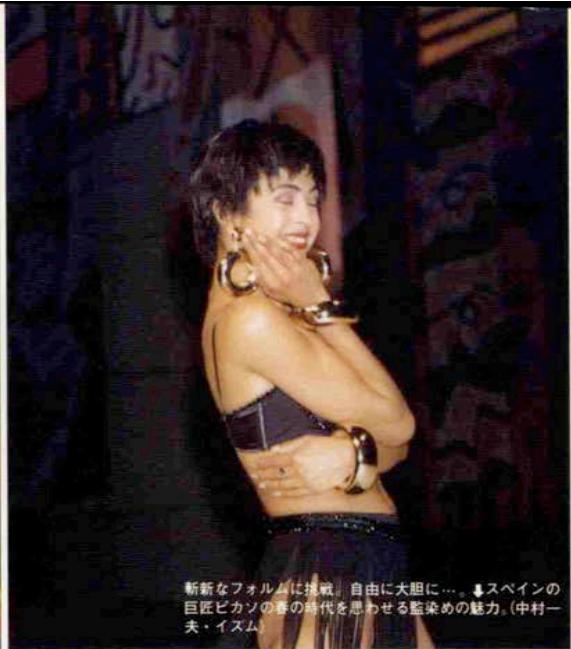
- 1958年 大阪府豊中市生まれ
1982年 個展(ギャラリーマロニエ・京都)
京展・市長賞
1983年 京都市立芸術大学大学院 陶磁器専攻修了
京都クラフト展・奨励賞
1984年 個展(ギャラリー白・大阪)
朝日現代クラフト展・優秀賞
1986年 個展(ギャラリー玄海・東京)
1987年 個展(ギャラリー紅・京都)
1988年 大阪現代アートフェア'88
1989年 個展(シティギャラリー・神戸)
国際陶磁器フェスティバル'89美濃・審査員特別賞
個展(三越本店・東京)



昨年11月、華やかに繰りひろげられたWFF 89ファッショニベントの中で注目を集めた「ニュークリエーターと日比野克彦90春夏コレクション」は、KOB E発のオリジナリティ溢れたショーとなり、新しい方向性を見いだすプロトタイプとして今後の活躍が大いに期待されるものであった。



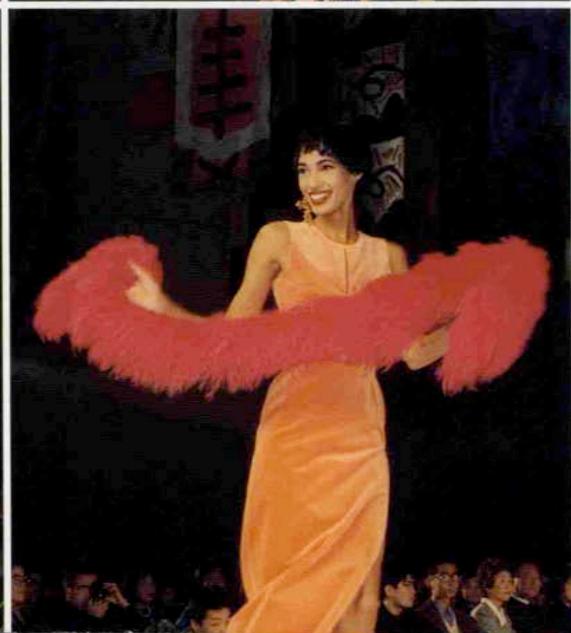
ナチュラルな赤茶色がひときわ鮮やか。都会っぽいイメージは大人の洒落。(宇敷道子・ジャヴァ)



斬新なフォルムに拘り、自由に大胆に…。■スペインの巨匠ピカソの春の時代を思わせる藍染めの魅力。(中村一夫・イズム)



アヴァンギャルドに迫まるビストエ娘。↑パワフルなカラーリーは情熱の国・スペインにふさわしい。(松永千音・ワールド)



笑顔の優しさがひときわ映えます、春の色。

通りガラス越しに見る「ヨアンスのあるカラ」。

甘いパステルとは一味違つ、粉っぽい色。

新しい年の始年に身にまといたいのは、

こんなパウダーカラーたちです。

朝選んだ服で、その日の気分が左右される「ともあり得ること」だからこそ、優しい気持ちになれるものを選んでみたのです。

春の訪れを感じさせる色で街をゆけば

また新しい自分が発見できそうな気がします。



●ベルスブーク
ジャケット(毛100%)
パンツ(毛100%)
ブラウス(綿100%)
コンテンポラリーナミセスにぴったりの
3階ハイファッションカジュアル

ふわっと軽やかなアクセント。
●スカーフ
(綿100% フランス製)
スカーフ···4,300円
1階シーズンプラザ



DAIMARU KOBE
電話(078)331-8121

新春は1月3日㊐11時から営業。(3日㈬は6時まで)
1月17日㊐・18日㊑は連休させていただきます。

SOPHISTICATE SPRING



洗練された大人の上品さを。
●ラビカ
スーツ(毛90%) 69,000円
3階レースペース

●表示価格の3%を消費税として別途頂だいいたします。



ヘルトーンが爽やかな印象です。
●マダム花井
ジャケット(毛100%) 62,000円
パンツ(毛90%) 38,000円
ブラウス(ポリエステル混) 23,000円
3階ハイアツショーカジアル

こんなに、神戸です。

謹賀新年

'90年は心をこめた手作りの味わいを

新しい年も“にしむら珈琲店”をよろしくお願ひ申し上げます。

昨年の春には、毎年行われるミナハワイコナコーヒーの審査会に、全日本グルメコーヒー協会から代表として、1位になつた“ミス”にティアラや花束のプレゼンティターとして出席致しました。日本で見られぬ様な華やかな審査会で、会場のファイバーバリぶりは圧巻でした。

左ページの写真にあります様に、仕事の合間にコツコツ作っておりますカリフォルニア・ファンシーエッグの大会が、今年3月ロスであります又、日本代表として参加致します。

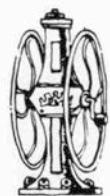


帰国後、今までに作りました木彫と玉子のアートとのドッキングした作品展を、みかげ店3Fのフレンドサロンで開く予定でございます。その時は神戸つ子誌上にてご案内致しますので、どうぞご覧下さいませ。

趣味のことばかり書きましたが、もちろん“にしむら珈琲店”がますます皆様に可愛いがられる様な店作りに心して参ります。

読売テレビの“世界のトピックス”の中で放映された、大阪O.B.P店のオリジナルクリスマスツリーです。玉子250個の中身を抜き1個1個ドリルで透かし模様を施し、中に電球を入れました。また、手編みの帽子を被せた人形など。

制作・デザイン川瀬喜代子



にしむら珈琲店

Kobe.Ashiya.Osaka

ヨーロッパの豊かな歴史と伝統を継承した高級ホテル



<16F>バルセロナ Barcelona



HOTEL GAUFRES RITZ
KOBEPIA

ホテルゴーフルリツ

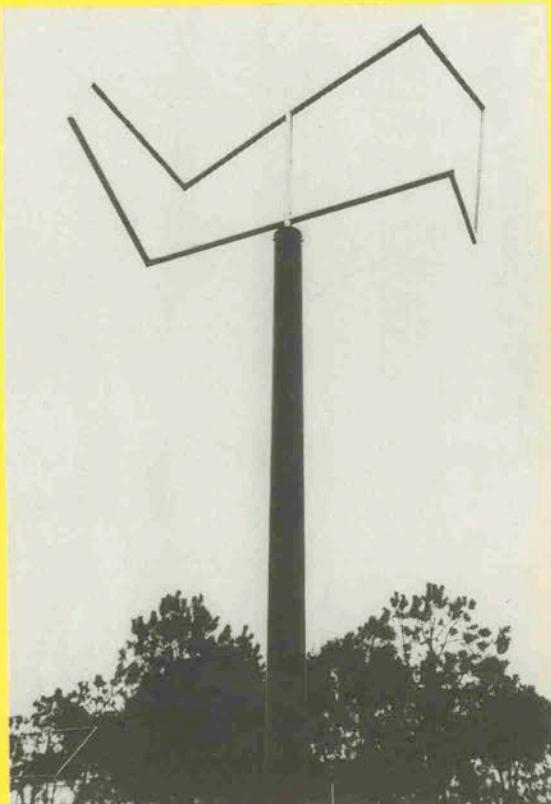
神戸 月堂 港島

ご予約
お問い合わせ

ミナサンゴーフル
(078)303-5555

〒650 神戸市中央区港島中町6丁目1番
(ポートライナー市民広場駅下車北へ、商工会議所とツインビル)



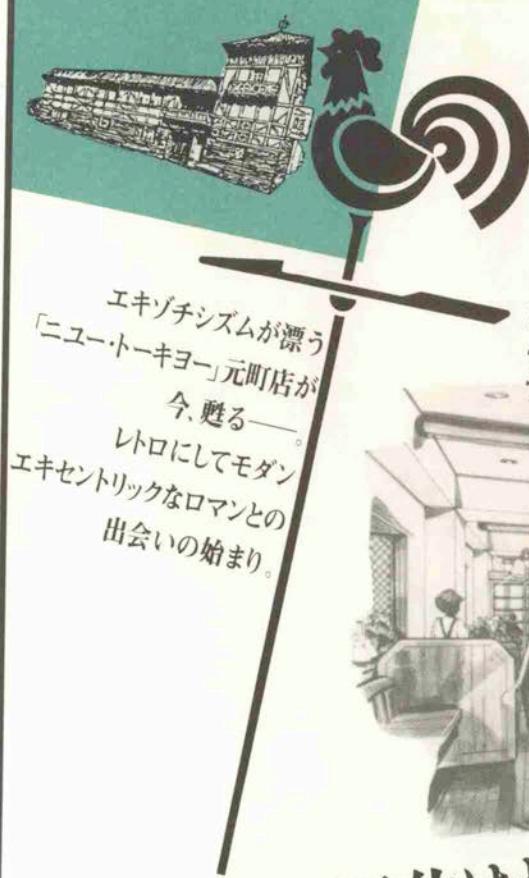


松本薫作
From 90° to 90°「T」

これは神戸を愛する人々の雑誌です
あなたのくらしに楽しい夢をおくる
神戸を訪れる人にはやさしい道しるべ
これは神戸っ子の心の手帖です

1月号目次●1990・No.345

- 表紙／（故）小磯良平
セカンドカバー／西村 功
11 神戸っ子90／田仲留美子・増田晴信
14 ある集い／神商コラス部・テレマンアンサンブル
17 コウベスマップ／NHK杯国際フィギュアスケート
18 美の小箱／文・赤根和生 絵・重松あゆみ
31 私の意見／山村恒年
32 第14回 神戸文学賞受賞者発表
35 隨想四題／末次攝子・望月美佐・白斐一雄・高井翠花
39 地域文化論／米花稔
40 連載隨想 旅のかたち (14) 雪の宿／安水稔和 絵・中西勝
42 球体のみながら／新谷秀紀
45 経済ポケットジャーナル
46 新春ビッグ対談 I／陳舜臣VS五木寛之
51 新春ビッグ対談 II／貝原俊民VS住野和子
57 話題の広場 I／神戸歌謡祭
58 キャンペーン国際都市神戸を考える／90年代の神戸文化について
池上忠治・野田義彰・小笠原暁・水谷頼介・辻忠弘
64 WFF in Kobe からの報告／ファッションフェア、ファッションタウン
街ひらき、グルメティアKobe
72 新春タカラヅカ対談／柴田揚宏、杜けあき、一路真輝
83 ミラノ情報／大島知恵
84 神戸のお姉さん／荒木美也子・沢谷美貴子
113 コーヒーブレイク
114 動物園飼育日記／ノウの動物園史(4)・文 亀井一成
117 神戸の集いから／留学生フォーラム・竹村まことを祝うタバ
124 有馬歳時記／新春特別湯けむり対談
定山峠温泉VS有馬温泉
128 プロフェッサーPの研究室／岡田淳
130 神戸を福祉の街に／橋本明
132 神戸百店会だより
134 モダンカルチャー
136 シネマ試写室／バック・トゥ・ザ・フューチャー2/淀川長治
138 びっといん
140 ポケットジャーナル
143 話題のひろばII／兵庫大仏台座完成
144 おるがるたーじゅ神戸／西神ブレンティ完成 文・有井基
146 神戸文学賞選考座談会／杜山悠・武田芳一・鄭承博
152 連載小説／風車の音はいらない（神戸文学賞受賞作品）／
上田三洋子 絵・小西保文
176 海・船・港／明岩フェリーあさしお丸就航
目次作品—松本薫
カメラ／米田定蔵・池田年夫・松原卓也・森田薰志



エキゾチズムが漂う
「ニュー・トーキョー」元町店が
今、甦る—。
レトロにしてモダン
エキセントリックなロマンとの
出会いの始まり。

風見鶏がみた夢物語は
何だろう。

新年会 予約承ります



ご相談・ご予約はお気軽に 078-391-4511

1F ビヤホール「WELL」 ウエル

「樽から生まれたてのビールは、最高ダゼ！」
「自慢のチムニーロースター料理も最高ネ！」
笑顔と会話がいっぱい。さあ、仲間が揃つたら
“カンパイ”しようぜ—。

●営業時間(平日) 11:30am~ 2:00pm.
4:00pm~11:00pm.

2F 居酒屋「さがみ」

「とれたての魚って、
舌にとろけるみたいでおいしい。」
「熟爛片手に、旬の日本の味って、
やっぱりうまい。」
明石港直送の海の幸や、野や山の幸、
旬の串やきを民芸調の雰囲気の中で
存分に。(個室もご用意しています。)

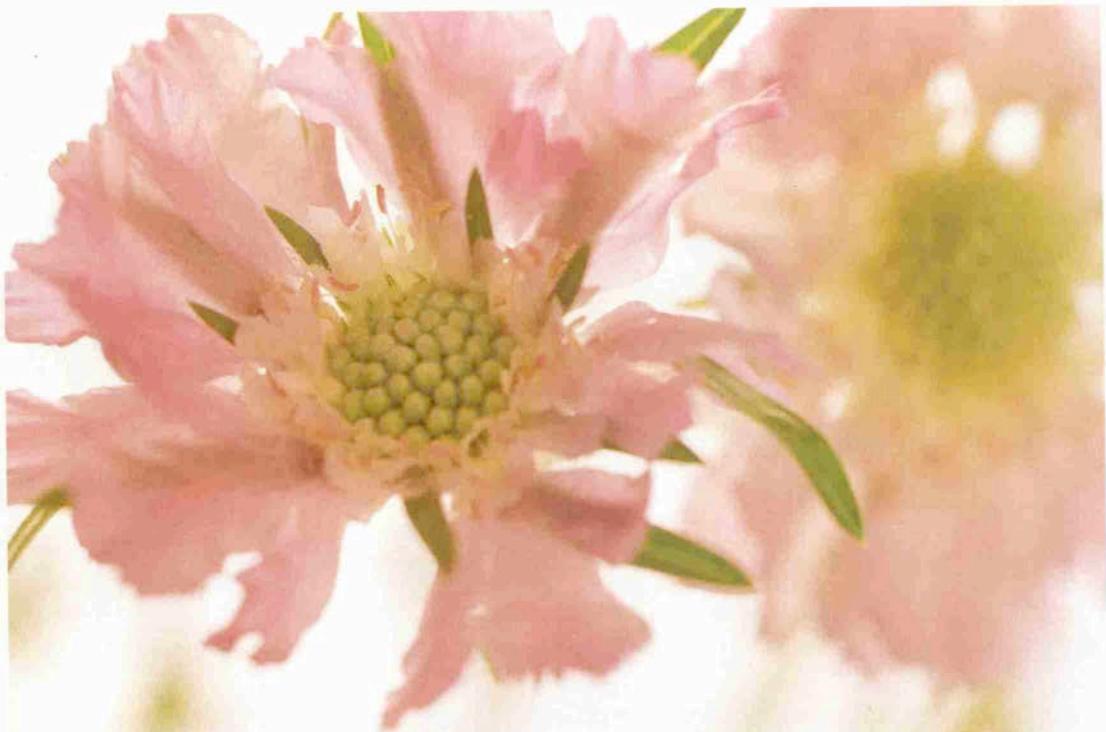
●営業時間(平日) 4:00pm~11:00pm.

3F パーティルーム

●洋室15~50名様用
和やかな各種ご宴会、ご会合
などにお気軽にご利用くだ

神戸元町 [1-ト-ナ-]

TEL 078(391)4511(大代)



花の夢

IMAGE OF KOBE

1月

*Photo by
Yasuyuki Fujiiwara*

KOBE
MASA

さんちか店 (078) 321-4545 サンプラザ店 (078) 331-0950 須磨パティオ店 (078) 792-5652 西神ブレンティ店 (078) 992-0086
芦塚ファミリーストア店 (0797) 73-5359 千里阪急地下街店 (06) 831-0756 加古川店 (0794) 25-5514

MAC ORIGINAL BRAND



楽しみたね、マックジュニア

MACオリジナル商品

ダッフルコート

¥39,000

兼島達矢くん

Pコート

¥29,000

西田明子さん

フード付ジャンパー

¥28,000

有浦篤子さん

フード付ハーフコート

¥19,800

植村知美さん

ショートダッフルコート

¥35,000

植村一仁くん

フィールドコート

¥27,000

西田太一くん



HEAD OFFICE 7F NEW CENTER 1-6-22/SANNOMIYA-CHO CHUO-KU KOBE CITY 078-392-1651

SANNOMIYA MAC

SANNOMIYA CENTER-GAI 1 078-391-0895

THE BLAZER SHOP MAC

TOR-ROAD 078-391-0896

DOLCE MAC

SANNOMIYA CENTER-GAI 2 078-332-0141

FESTA MAC

HIMEJI FESTA 2F 0792-89-4738

BENETTON MAC

HIMEJI FESTA 3F 0792-22-1333

FUJIIDAIMARU MAC

KYOTO FUJIIDAIMARU 2F 075-211-0857

SUNVIOLA MAC

TAKARAZUKA SUNVIOLA 3F 0797-71-4830

PLENTY MAC

SEISIN PLENTY 2F 078-992-0088

□わたしの意見

都市と環境の調和に市民参加を

山村 恒年

△神戸大学法学部教授△



神戸は私の好きな街である。だが、その神戸の街も變りつつある。自然の良い環境が年々に失われ、街の彼方にひろがっていた海も、埋立によってその姿を変えつつある。

同じウオーターフロント都市であるサンフランシスコと比べると神戸には問題点が多い。サンフランシスコでは、ベイ・プラン（湾環境計画）というのがある。それは、市民参加によって作られた環境保全・利用計画である。山側、陸域、湾域一帯の生態系の調査に基づいて、

環境適性評価を行ない、地域の特質に応じた利用区分がなされ、土地の適性に反する利用の規制を行なっている。

その結果、海の埋立は原則として凍結された。衰退した沿岸の工場等は撤去され、その跡は市民のための憩の場に再生されている。それには多くの市民の工夫が反映されている。神戸にもこのような「環境ベイ・プラン」が必要なのではなかろうか。

株式会社神戸市といわれる市の行政は、市の企業的経営という面では評価されている。しかし、布引公園のロープウェーの建設やその旧ゴルフ場跡の整備、旧谷崎潤一郎邸の移転問題等、住民運動からは、その開発指向が強く批判されている。

市民参加のやり方でも「意見があつたら述べて下さい」という面では不十分である。市の職員が自ら、市民とねばり強く接触し、その意向やアイデアを汲みあげていくという積極性が必要である。

神戸市の行政にも、北野の異人館街などの景観形成行政にはすぐれた面もある。しかし、最近は派手なみやげ品店などの乱立や異人館の客引など、観光化の悪い面が目立つ。神戸の街は、観光都市化するよりも、文化都市化の方向を目指すべきではないか。

神戸の自然も、ロープウェイや箱物で俗化させるよりも、自然にとけ合った利用をめさすべきではなかろうか。

大学のキャンパスから見降す神戸の街を見るにつけて、神戸が、自然豊かな文化都市として生きつづけることを願うものである。

神戸文学賞発表

昭和五十一年、小誌は創刊15周年記念事業として、作家を志す有為の新人に新しく道を開くために「神戸文学賞」および「神戸女流文学賞」を創設し、第12回目より、さらなる質の向上を図るために、両賞を「神戸文学賞」に一本化し、作品募集地域を西日本より全国にさせていただきました。第14回作品募集は、昨年九月末に締切り、全国各地から多数の応募作が寄せられ、別記の選考委員により最終選考を行い左記の作品が第14回の受賞作・佳作と決定しましたのでここに発表します。△受賞式は一月二十三日(火)オリエンタルホテル大ホールで行います▽

□神戸文学賞受賞 上田三洋子(うえだ・みよこ)

「風車の音はいらない」



△略歴▽

一九二九年石川県生まれ。県立小松高女卒業。

約八年前から小説を書き始め、現在はとばす同人。

△受賞の言葉▽

価値観選択肢のさまざまを、今回は肩の力を抜いて創ってみた。それが幸いしたのか思いがけぬ受賞に深謝。気の多い私に足止め役をし集中して創作せよということなどネジ巻きを始めている。

○受賞候補作

「床屋の細君」

野地 慎生

(△長崎県▽

「風車の音はいらない」

上田三洋子

(△京都府▽

「北京日本大使館」

松原 栄

(△沖縄県▽

「ハーネスよ、語れ」

藤森 恒夫

(△長野県▽

「狐月旅行」

烟 裕子

(△滋賀県▽

「狐火」

水野 朝美

(△大阪府▽

「別墅の宵」

福永タミ子

(△広島県▽

「夏の遠景」

伊々田 桃

(△奈良県▽

「夏の遠景」

△略歴▽

一九六〇年奈良県生まれ。大阪芸術大学芸術学部文学科卒業。同人雑誌「我流」執筆同人・編集委員。大和路を一人で見聞した雑記を作成中。

△受賞の言葉▽

未熟さを意識し続けた五年間だったよう思います。未熟さに突き当たるたびに、自分をなだめたりあるいは叱ったり。佳作入選は、今後の強い励みとなりました。ありがとうございました。ありがとうございました。

主 催 月刊 神戸つ子

□選考委員

杜 山

(△奈良県▽

鄭 承 博

(△奈良県▽

武 田 芳 一

(△奈良県▽

悠 悠

(△奈良県▽

●第14回神戸文学賞受賞者

上田三洋子（うえだ・みよこ）

キャリア8年で頭角を表わす

小説を書き初めてから、まだ8年余りのキャリアにも関わらず、第14回「神戸文学賞」を受賞した上田三洋子さんは、石川県小松市の生まれ育ち。さぞかし文学少女だったのだろうと伺うと、「小さい頃から小説も含めて、本はほとんど読んだことがありません」と語る。「時間潰しに人の書いたものを読んでいるうちに『この位なら私も書けるわ』と思って…」大阪茨木のとぼす同人に参加し、めきめき頭角を表わした。

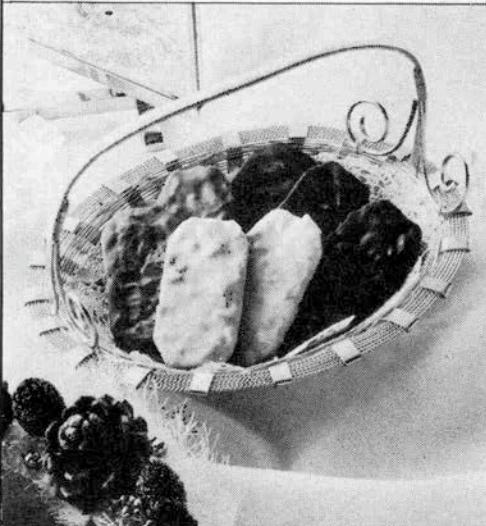
現在は京都・長岡京市に息子さん一家と住んでいる。短歌、ろうけつ染め、アートフラワー、油絵と趣味にも忙しいが、今一番熱中していることは社交ダンス。自ら「アウトドア派の作家」と称すだけあって、体を動かすことが大好き。「好きな作家は初期の安部公房」と語る上田さんの次の目標は、神戸から全国に名を轟かせることである。

（さんちかにて）



RHEINGOLD

ラインゴールド



特級バターたっぷりのピスケット生地に
炒りたてのナッツを入れて
チョコレートでコーティングした、
3つの黄金の味わい。
素敵なセピア缶に詰合せて、新発売。

¥1,000(15包入)

¥2,000(30包入)

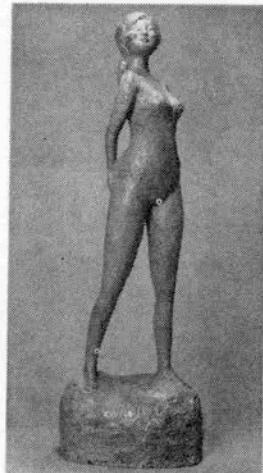
¥3,000(45包入)



ユーハイム

*記載しております価格は、消費税抜きの価格です。

KAKINUMA GALLERY



「リズムが聞こえて」
(彫塑・ブロンズ)

羽多 悅子・作

日本現代美術家連盟常任理事
神戸女子短期大学助教授

「さあー、準備はいいですか」リズムが次第に大きく聞こえて、身体の芯から爪先までがリズムを聞いています。胸を張つて、空へと飛び立つように、躍動前の心準備が全身に満ち溢れて来て、観る人の心を弾ませます。

(柿沼産婦人科に展示1/4~1/31)

女性のためのオープンスペース
★健保適用 産婦人科・内科(女性専科)

芦屋 柿沼産婦人科



阪神芦屋駅北へ1分・芦屋警察署東隣り
☎ (0797) 31-1234 (FAX兼用)

当GALLERYに掲載ご希望の方は月刊神戸っ子まで御連絡下さい。

隨想四題 天馬空を行く

望月 美佐
（望月書道藝術院院長）



平成元年は日本列島縦断で北は北海道から南は沖縄まで充実した活動を展開しました。11月23日から12月17日まで沖縄は実年のスポーツと文化の祭典をテーマに「サンピア沖縄」が開催され、23日の初日のオープニングセレモニーには一千人を前にして私の動の書を披露したのです。「ここにも、からだにも、あたたかい出会い」

を6mの白に書き、4mの青には「讀士飛愛」、中央の赤には「沖縄」と大書。音と光の中での書のデモンストレーションははじめての沖縄の人々には大好評でした。

文化イベントとしても望月美佐作品展が26日まで繁華街の中心にある国際通りのベスト電気7階の豪華催会場で開催されました。「くらしに文字を」をテーマに、漢字・かな・現代文と、料紙も沖縄の月桃紙をはじめ、日本・中国、その他色々の加工紙を使用した書作品と美佐オリジナルの着物、帯、ネクタイなど多彩に展示し、

16畳の舞台では1日2回笛の藤舎龍峰氏の共演で、紅白の屏風4日



沖縄で動の書を披露

間で8曲を書きチャリティオークション。春設立されたばかりの沖縄県長寿社会振興財団に30万円を寄付いたしましたが、私が第一号ということで各新聞やテレビにも放映され感激でした。

兵庫と沖縄は友愛県として貝原知事、西銘知事も大変親しくなされ、両知事のメッセージを頂戴して今回の訪問でしたが「サンピア沖縄」の主旨の如く、健全なる身体に勝るものなく、あたたか

い出会いにも感謝しております。調和のとれた生活に調和のとれた食生活、それには長寿県の沖縄の気候、風土、食べ物に大変勉強になることが多かったと思いま

た。日本も昭和から平成の誕生という大きな変動がありましたのが、世界各国でもそれぞれの移り変わりが日々報道されています。平成二年は新天皇の即位の大典もありますことですし、心あたたまる庚午（かのえのうま）年を迎えました。

天馬福星開寿城

きらめく星の中を天馬が福をもつて寿城を開くという中国のことばです。縁起のよい、このことばを私は軸に額に色紙と書いておられます。私の作品やオリジナルも日本中、いや世界中のより多くの人々の中で愛され、生きてくれることを念じ、私のこれまでの歩みを一層踏み固めて、より大きくて空に向って駆ける元どしであります。いと心から願っております。

神戸と私

白髪 一雄
（アクションペインター）



神戸は私の幼時の思い出に、強い印象を出した町である。神戸へ行けばエキゾティシズムが味わえるという感覺が、私を惹き付けて成人して來た。

昔屋の山手に住んでいた伯父が、大変私を可愛がって呉れたが、伯父は散歩と称して、私をたびたび神戸へ連れて行つて呉れた。そこでは外国人に逢えるという興味が、私のそこへ行きたいという願望を支配していた。

私が生まれ育った尼崎は、昭和の初期の頃にはまだ城下町の名残りが漂っていた。旧幕時代の朝鮮通信使節の重要な通路であったからか、韓国人達も沢山住むようになって、町には絵から抜け出て来たような、白い装束にシルクハットの様な帽子を冠り、手に長い煙管を持つた韓国紳士が、色々と漫歩しているという光景が、幼い私の記憶の中に浮び上つて來た。諏訪山に登り港を見下ろし



神戸の港に遊ぶ

て、神戸の市街を眺めたこともある。

元町あたりへ戻つくると、必ず西洋人を見ることが出来た。背の高い金髪の青い目の人々は、畏怖の念を抱いた。

南京町は今では立派な門が建ち、華やかなムードに満ちているが、当時は少し不潔なごみごみした町で、日本の他では見られない色彩や臭いが渦巻いていた。黒いピカピカ光る服を着て、纏足の小

さな足でチヨコチヨコ歩く中国人のお婆さんの姿が、今でも瞼に浮かんで来る。

私達が當時西洋人と呼んでいた欧米の人達の中には、神戸を随分愛して永住して神戸に骨を埋めた人もあると聞く。六甲山にゴルフ場を日本で最初に開設したのは彼らであり、六甲や神戸の背山に横文字の地名が残っているのは、彼らの足跡を示すものであろう。

トウエンティクロスとかアゴニー坂とかの名が、神戸の自然の中に入今も留められている。

神戸周辺の山々の自然は美しい。私は神戸市が作ったハイキングコース「太陽と緑の道」が好きで、随分歩いたものである。しかし最近はいろんな開発が進み、このコースも忘れられかけている様である。

神戸市が開発のために自然破壊をあえて進めるならば、必ず大きなつけが神戸市に何時か廻つてくるのではないかろうか。

愛する神戸のために、自然保護をもつとしつかりやつて貰いたいと思う。

神戸が好き

末次 摄子
（ジャーナリスト）



中山手教会前ブティック・マーガレットの大きなガラス戸から、道ゆく女たちを見る。背すじを伸ばして脚どりが軽い。イタリア美女のパトリツア夫人がボニイティルのプロンドをもたげて、剣道着姿で通る。私はわくわく「すてき、絵になる神戸！」よネエ。

あるじの藤本ハルミさんが色白の頬を紅潮させて、『わが町神戸』を語りやまぬ。岡田美代さんや小泉美喜子さんがふらりと、あるいは次なる緒にお茶を呑む午後もある。

この三美女が、神戸の街のイベントプロデューサーと気づく。たのしいことが大好きで、多彩な趣向。女も男もまきこみ、財界人、役人もとりこむしたたかさ。「そうよオ、大阪どちがって神戸の男性はスマートで親切なのよオ」とじまんする。

十年余り前、『男ばかりがたてまえ』のバーボンクラブの仲間に入ってもらっていたことがあった。加藤宮司さん、筒井康隆さん、石阪画伯、小曾根さん、中西さん、

ひげのキャンティさん、宮田さんそれに陳舜臣さん、新井満ちゃんみんな明るくて親切で遊び上手。この人たちを通して私は神戸の男を眺めているのかもしねない。

近年は新野幸次郎先生としばしば一緒に、そのマイルドなお柄、会議の気くばり、まとめ上げる呼吸のすばらしさに惚れ惚れする。古くは昭和二十一年に京都の新聞社で机を並べて以来の友人もすてきな紳士、森本泰好さんで



神戸まつりで末次さん（左）と小山乃里子さん

ある。

カモカのおっちゃんとお聖さんも、いまだに神戸イメージの上に在るおひとだ。二十年ほど昔、田辺邸で奈良本辰也先生とおよばれて、終電車の階段を息せき切れして、終電車の階段を息せき切って駆けのぼった記憶も。

思い返すとTVの仕事でこの街へしばしば通った。島津貴子夫妻新婚旅行のお膳立てをして、神戸港から関西汽船くれない丸で別府へ向った。昭和三十五年五月二日朝の晴れがましい思い出はさておき、三島由紀夫の劇的な死を知った秋の日——ドキュメンタリー取材のため、フロインドリーブ、ローマイヤー、と走るタクシーの中で正午のニュースが三島事件を告げたのだ。私は蒼くなつて、会社にすつとんと帰つたのだった。

一九〇〇年生れの母が「あたしは六つの時神戸へ行って、『外国の町』と思ったのよ」と雪の北海道で、幼児期の私にしばしば語つた。いまそその神戸とのご縁をつづることがなつかしい。

花の心を大切に

高井 翠花
（佳生流家元理事）



兵庫県女流いけばな展 生け花展（昨年11月5・6日、生田神社会館にて）

松とバラは出会いがいいけれど新春にはストレリチアと取り合せて輝きを表現しようとか「出会い」と言う言葉を大切にします。

私達燐の会はこの度花とインテリア家具との出会いを試みました。生田神社会館ロビーを第一会場に、訪れた人々は池のある風景を眺め乍ら可愛いすみれの小品花を見惚れたり、豪華な姿見に調和したオンシジユーム、飾り棚を生かして果物やおもちゃの車を配した盛物、ブルーのソファーアーに何げなくころがしたフォックスフェイスについ笑顔がほころび、紫の鮮かなあじさいやデンファレの色も美しい今までの花ながらのドライフラワーに見とれ、和紙やラメ入り布地にラッピングされたバラの商品棚に感心しながら、現代立華あり格花あり女性ならではの作品が人々の足を第二会場へと運ばせました。常設の有名作家の絵画や書も巧みにインテリアとして取り込んだり、机や椅子やスタンドなど家具にまで生命を吹き込んだ造形の数々を眺め乍ら茶菓のおもて

なしをし、日頃の会員の和がそのまま会場の雰囲気となって観る人の心をなごませました。

燐の会は流派を超えて兵庫県の女流いけばな作家16人が親睦と研鑽をモットーに集い早や16年。その間精魂込めた作品を発表してまいりましたが、メンバーの出入もあり現在の流派9名に若い息吹を加え正副会員18名で構成され、時には研修旅行や、講師を各界から招いての勉強会を企画し共にげんでいます。生涯現役をまさに実践して居られる方々から学ぶ事多く、年齢幅の広さも特筆すべきことです。

今年は花博の年でもあり、私達の現代感覚と日本の伝統である自然美との調和を追求する作品を通じていけばなの美、花の美しさを世界の人々に伝える好機だと思います。四季折々の花を愛でいくつてしまふ優しさこそ人間に取つて大切な事です。いずれ訪れる高齢化社会にむけて花の心を大切に、花をいたわる心こそ最も大切な事ではないでしょうか。

中世遺跡の草戸千軒町

—福山の広島県立歴史博物館開く
米花 稔

(神戸大学名誉教授)

山陽新幹線福山駅すぐ北に福山

城（戦後再建）がある。その西側

に平成元年一月三日広島県立歴

史博物館が開館せられた。丁度一

年前の文化の日にその北に市立ふ

くやま美術館が既に開館してい

る。お城のなかもや小規模なが

ら以前から市立博物館になつてい

る。駅近く一挙に文化ゾーンが形

成せられ、まことに魅力を加えよう

としている。あたかも数年前国宝

姫路城の東北に、兵庫県立歴史博

物館と姫路市立美術館がそろつ

て、その一帯がまことに風格を加え

たのと同じ感がする。まちの規模

も構造もそれ程ちがわぬ福山と

姫路は、ともに県庁のない地方中

核都市で、そこに県立歴史博物館

が設置せられたことは興味深い。

姫路の博物館は国宝のお城と播磨

の歴史と文化がよりどころであ

り、福山は全国的に知られた中世

遺跡「草戸千軒町」と瀬戸内の歴

史と文化が基礎となっている。

この福山の博物館は、「瀬戸内

の歴史をたどる」展示室、開館記

念企画「瀬戸内の塩」の展示もあ

るが、草戸千軒町の一角を实物大

に復元した「よみがえる草戸千軒

と発掘調査の「出土品はかたる」

の二展示室がなんといつてもメー

ンである。

JR福山駅をでて西すぐにかかる鉄橋、その下を流れる芦田川、

そのすこし南の中州から草戸千軒

の遺跡が現れたのである。昭和五

年の河川改修工事によって、しか

し川底遺跡の学術的発掘調査は、

戦後昭和三十六年、福山市教育委

員会によって手がけられた。昭年

四十八年には市内に県による草戸

千軒町遺跡調査所を設置、ついで

調査研究所として本格的にとりく

まれることになったという。

ここは中世室町時代当時湾入り

て港町として莊園村落の物資集散

で栄えたのち河口が南に移って衰

退していたという。江戸時代寛文

十三年の洪水で消滅して二五〇年のあと、さきにふれたように改修

工事で発見せられた。いま中世の

まちの人々のくらしに想いをいた

す興味深い展示がみられる。学界

でも貴重な成果とされているとい

う。

この県立博物館の館長には、本

欄で一〇年前（昭和五四年一〇月

号）に紹介した福山市松永の日本

はきもの博物館を自らの仕事にか

かわって設立せられた丸山茂樹氏

という民間の経営者があてられて

いるのも特徴的である。はきもの

博物館は先年サントリー文化財団から地域文化賞を受けて知られており。そして副館長は引続きここで研究室とが併設されていて、これからの博物館の本来のあり方として、とりわけ特徴的と指摘せられるのは姫路の兵庫県立歴史博物館長和田邦平氏である。展示と教育普及、調査研究、加えてまちの人々の文化交流の場にもなればと、これからを期待している。旅のついでに一見をお奨めしたい。



広島県立歴史博物館



草戸千軒町の一部復元展示